

7 樹木の点検

樹木の点検は、どのように進めていくのでしょうか。

【解説】

近年、区立施設において、倒木事故の発生が目立っています。事故の発生を予防し、施設を安全・快適に利用できるよう保つためには、建物や設備と同様、樹木に関しても点検し記録することが必要です。点検、記録は、「施設利用者等の安全と樹木の健全さとを確認すること」および「点検後に必要な作業の漏れを防止すること」を目的としています。

【対応】

樹木の点検は、日常点検、定期点検および手入れ時点検の3本立てでの実施が基本です。発見された異常や傷み（本章第2項参照）は、発生部位および進行度合いにより危険性が異なり、措置を急ぐ場合や継続調査が必要な場合があります。対応について、みどり推進課や専門業者に相談します。

（1）日常点検（空間点検）

日常点検では、原則として記録を必要としません。出退勤や業務従事の際に見える範囲の空間の状態を、施設利用者等の「邪魔」・「迷惑」・「危ない」視点で確認します。つぎの4項目について、伸びた枝、生えてきた樹木、枯れ枝や折れてぶら下がっている枝の存在に気が付く度に対処します。

- ア 敷地、施設への出入りに支障、危険になる枝葉はないか
- イ 通路、駐輪等スペースの利用に支障、危険になる枝葉はないか
- ウ メンテナンススペースに入り込む枝葉はないか
- エ 隣地へ越境しそうな、越境している枝葉はないか

作業を先に送ることや気になること（キノコが生えているなど）がある場合には、備忘録として直近に実施した定期点検の記録に追記します。また、危険な状態のものを見つけても自己対応できない場合は、立ち入り制限など安全を図ったうえ、専門業者を手配します。

(2) 定期点検（毎木点検）

定期点検では、すべての樹木を対象に、日常点検の内容に加え、別紙書式 1 の樹木チェックシートに記載の点検項目について、一年に 1 回 5 月頃、一本ずつ状態を確認・記録します。生垣や寄せ植えでは、一つのまとまり（一群）ごとに実施します。管理用図（参考資料 1 参照）を活用するなどして、点検漏れを防ぎます。後日対応を必要とするものがあれば、対応が完了した後、樹木にどのような異常があつてどのように対応したのかを必ず記録しておきます。記録した樹木チェックシートは次の手入れ時点検の際に剪定業者の確認を受け、より適切な樹木管理につなげます。

ア 樹木全体の様子

葉の状況を主に確認します。葉の付き方がまばらになっていないか、同種の樹木と比べて葉が小さくないか、葉が変色してないかなどを点検し、記録します。

イ 枝の状態（直径が概ね 10 cm以上の枝）

主に枯れ枝がないかどうかを調べます。樹皮の剥がれ、ひび割れ、変色、キノコの発生の有無について点検し、記録します。

ウ 幹の状態

幹に大きな穴がないか、樹皮が大きく剥がれていないか、幹から粉やゼリー状の物質が出ていないかなどを目視で点検します。また、木槌で幹を叩いて異音（木魚のような反響など）がないか点検し、記録します。

エ 根元の状態

目視による根元周辺地面の亀裂の有無、幹を押したときの根元の揺れの有無、根元に大きく固いキノコの有無、これまでの記録と比較しての傾きの拡大の有無などを点検し、記録します。

樹木の傾き

樹木が根の異常により傾く場合、当初はごく小さな変化なので気付くことが困難です。なんとなく気になるような場合には、写真を撮影し、次回の点検時等時間を置いて比較できるよう、目印を付けたうえ記録を整理しておきます。



(3) 手入れ時点検（聞き取り点検）

日常・定期点検では、樹木の高い部分や枝の上面の状態を確認することができません。みどり推進課が実施している2年に一度の樹木剪定時や指定管理施設などにおける樹木剪定の際に行う手入れ時点検は、樹木チェックシートを剪定業者に確認してもらい、適切な樹木剪定を行うことができるように活用してください。

チェックシートの活用

チェックシートを用い、日常的に施設内の樹木状況をチェックしておくことで、剪定業者などに樹木の現状を把握してもらうことができ、より適切な樹木手入れを行うことができます。これにより、枯れや倒木などの事故を未然に防ぐことができるだけでなく、施設の機能を損なうことなく良好なみどり環境を保つことにつながります。

【業者さんに伝えておくこと】

打ち合わせ例：「作業時の樹木の状態を、資料を参考に報告書として提出してください。」

仕様書記載例：作業終了後、作業実施樹木の幹、枝、根に関し、損傷、病虫害、菌類の侵食および異常な揺れの有無に関し任意の書式で報告すること。

【事例紹介】

令和3年、学校の樹木が倒れ、隣地マンションへ被害を及ぼす事故が発生しました。折れた幹の内部はほとんど空洞となっており、打音点検でリスクを把握し、専門家につなげられていれば防げたかもしれません。施設管理者による点検は、早期に専門家へつなげるための大切な仕事です。

